

この頃までは来訪者に笑顔を絶やさなかったが、既に末期ガンの宣告を受け覚悟していたのである。四月末に入院してそのままになった。病室で奥様に「もう逝ってもいいか」と声をかけたという。

かつて手がけた「青山史考」を再度、完全なカラー印刷にしたいという念願を遺族に託していたという。

◆表紙解説

黒沢東光庵の桜。明治十年西南の役に官軍がこの庵に本営を置いたという。後に国木田独歩が訪れた。また毛利高範公と訪れた谷謙一郎は桜樹の寿命を毛利家三百年の歴史に比喩している。このとき既に野津將軍の伝説が生じていた。大正三年八月巨木は倒れたが小さい一株だけが残り、現在もなお人の目を喜ばしている。

◆新刊図書等の紹介

『密命』佐伯泰英著

著者が初めて時代小説を書いた。それが佐伯藩の佐伯文庫をヒントにした作品で、番匠川や船頭町の地名も登場する。既に四〇〇万部を突破して一躍ベストセラー作家となり、五、六月にテレビ東京がドラマ化して放映された。現在十九巻が出版されている。

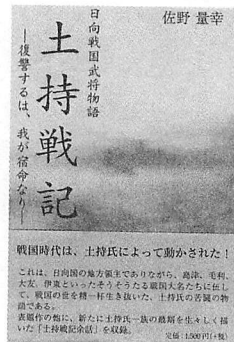
県や市の観光課はこれを目玉にした観光客の誘致を進めている。



『土持戦記』佐野量幸著

日向(延岡) 松尾城主土持氏の滅亡

をテーマにした物語で、大友宗麟の侍大将佐伯惟教が登場、また佐伯惟定の堅田合戦の様子などが詳しく描かれている。
一、五〇〇円(税別)



『さいき花へんろ』佐伯文化交流協会

佐伯四国八十八ヶ所を紹介、地図や写真を付けており巡拝の手引き書として最適である。

